

## 第6学年 社会科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日(〇)  
 第5校時 13:40～14:25  
 対 象 第6学年2組 33名  
 学校名 小学校  
 指導者 〇〇 〇〇  
 会 場 体育館

### 1 小単元名 「近代国家を目ざして」(教育出版)

### 2 小単元の目標

- ・日本の国力が充実し国際的地位が向上したことについて、絵画・写真資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料で調べ、条約改正に向けた取組の特色、出来事や人物の関連について考え、表現することを通して理解する。
- ・条約改正に向けた取組について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養う。

### 3 小単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財や年表、その他の資料で調べ、条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、科学の発展などを理解している。  ② 調べたことを年表や図表、文などにまとめ、日本の国力が充実し、国際的地位が向上したことを理解している。	① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、科学の発展などについて考え、表現している。  ② 条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、科学の発展などを関連付けたり総合したりして、このころの世の中の様子や日本の国際的地位に与えた影響について考え、適切に表現している。	① 条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、科学の発展などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。  ② 学習したことをもとに、過去の出来事の世の中に与えた影響や、現代社会との関連などの視点から、社会の発展について考えようとしている。

### 4 指導観

#### (1) 単元観

本小単元は、小学校学習指導要領(平成29年7月告示)第3章1節社会第6学年の目標(1)、(2)、(3)及び内容(2)に基づいて設定した。

#### 目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 我が国の政治の考え方と仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

## 内容

(2) 我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。

(コ) 大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実に国際的地位が向上したことを理解すること。

(シ) 遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること。

(ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

本小単元では、明治中・後期から大正期までの間に我が国の国力が充実に国際的地位が向上したることについて学習する。

この時代に整備された政治の仕組みや大日本帝国憲法などは、現代社会にも共通点を見いだすことができるため、常に現代の日本社会と比較する視点を持ちながら学習を進めていく。江戸時代からの政治体制の変遷を捉えたり、明治時代以降、どのような出来事を経て現代に至るのかを考えたりする活動を通して、時間的な見方を働かせて社会的事象を捉える力を養っていききたい。また、国内では西南戦争を機に言論で主張する世の中に変化していったものの、世界情勢においては帝国主義が主流となり、多くの人々が犠牲となる戦争が各国で発生する。日本もその流れの中で、植民地政策を行い、中国との間で対立が起こり戦争が始まった。明治時代後期に国際的地位が向上し、不平等条約の改正という目に見えた成果をあげることができた日本だが、その背景には軍事力を用いた政策があったことを捉えさせ、現代社会の在り方や歴史を学ぶ意義についても考えさせていきたい。

## (2) 児童観

歴史の授業では、文化財や年表、文章資料などを通して調べて図解化させ、社会的事象を捉えさせている。図解化について、歴史の流れを捉える「流れの図解化」と、相互の関連や広がりをつまえる「広がり図解化」とに分けた際、時系列に整理しやすいという理由で、前者を得意としている児童が多い。後者の図解化は、事象同士のつながりを見いだしにくいいためか、思うようにまとめられない児童が見られる。本小単元では、調べる段階で「流れの図解化」と「広がり図解化」を両方扱うこととする。毎時間「流れの図解化」なのか「広がり図解化」なのか、児童と確認しながら授業を進めていき、時間的・空間的な見方や考え方を働かせて資料を読み、社会的事象を捉えていく力を養っていく。

各単元のまとめでは、「聖徳太子の思いは何%実現したか。」や「初期の江戸幕府の行った政治の中で、最も効果のあった政策は何か。」など、学習したことを基に様々な社会的事象と比較・関連・総合させながら価値付けするような意見記述を経験させてきた。本小単元でも、国内と世界それぞれの情勢を関連させながら、日本の国際的地位向上にもっとも影響を与えた出来事について考えさせ、表現させたい。

## (3) 教材観

本小単元において、日本の国際的地位の向上を理解するためには、様々な社会的事象を、日本国民や政府、世界の国々などの視点から捉えていく必要がある。そのため、「調べる」の段階では、そのそれぞれの立場の人々の思いが読み取れたり考えられたりする資料を扱い、社会的事象に関わった人々の思いや考えを吹き出し等にまとめる活動を行う。

本時では、治外法権の撤廃と日清戦争の資料を扱う。日本の近代化や極東での立場が欧米諸国に少しずつ認められてきた中で、イギリスとの交渉を成功させたことや、ロシアや清との関係の中で起こった日清戦争に勝利したことを調べる活動を通して、日本の国際的な地位が向上してきたことを捉えさせたい。また、本時を通して、日本が戦争に勝利したということを、単に日本の国際的地位の向上につながった1つの要素とするのではなく、当時の日本社会や世界の国々、その後の歴史にどのような影響を与えたのかという視点から考えさせ、未だに紛争が絶えない現代社会にまで考えを広げることのできる児童に育てていきたい。

## 5 年間指導計画における位置付け

	小単元名	時数
前期	オリエンテーション	1 時間
	憲法とわたしたちの暮らし	11 時間
	わたしたちの暮らしを支える政治	7 時間
	オリエンテーション	1 時間
	国づくりへの歩み	7 時間
	大陸に学んだ国づくり	7 時間
	武士の政治が始まる	4 時間
	室町文化と力をつける人々	4 時間
	全国統一への動き	5 時間
後期	幕府の政治と人々の暮らし	5 時間
	新しい文化と学問	7 時間
	明治の新しい国づくり	7 時間
	近代国家を目ざして (本小単元)	9 時間
	戦争と人々の暮らし	7 時間
	平和で豊かな暮らしを目ざして	8 時間
	オリエンテーション	1 時間
	日本とつながりの深い国々	6 時間
	地球規模の課題の解決と国際協力	8 時間

6 小単元の指導計画と評価計画 (9時間扱い)

過程	時	ねらい	○学習活動 ・予想される児童の反応	□指導上の留意点 ※資料	◆評価規準 (評価方法)
つかむ	1	ノルマントン号事件について調べ、不平等条約の改正を願う人々の思いを考え、表現する。	『ノルマントン号事件とはどのような出来事だったのだろうか。』 ○前単元の学習を振り返る。 ・明治政府は欧米の国々に追いつこうと、富国強兵政策を進めた。 ・文明開化がおこり、人々の暮らしが西洋風に変化していった。 ・開国とともに欧米諸国と不平等条約を結んだ。 ○ノルマントン号事件を調べ、図解化する。 ○調べたことを基に、当時の人々の思いを考える。 ・政府にはいち早く不平等条約を改正してほしい。 ・早く国を発展させて不平等条約を改正してほしい。	□どのようなことが変わったのか、新たに生まれた社会の問題は何か、という視点から振り返らせる。  ※ノルマントン号事件 (文章資料) □自分が当時の日本国民だったらどのようなことを願うのかという視点から考えさせる。	◆イー① ノルマントン号事件が世の中に与えた影響に着目し、条約改正を望む日本国民の思いを考え、表現している。 (ノート記述分析)
	2	条約改正への歩みに着目し、条約改正を達成するまでの出来事について学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	『学習問題をつくり、学習計画を立てよう。』 ○条約改正に至るまで、どのような出来事が起こったのか調べ、学習問題をつくる。 ・ノルマントン号事件から25年後に条約改正がされている。 ・大日本帝国憲法が發布されている。 ・日清戦争や日露戦争が起こった。 ・様々な分野の研究で日本人が功績を残している。 ・人々の暮らしの様子も変化している。	※風刺画「西洋クラブの仲間入りをする日本」 ※条約改正までの出来事 (年表資料) ※大正期の人々の生活の様子 (写真資料)	
<p><b>学習問題</b></p> <p><b>日本はどのようにして欧米諸国と対等な関係となり、不平等条約の改正に成功したのだろうか。また、国民の生活はどのように変化していったのだろうか。</b></p>					
			○年表資料を基に学習計画を立てる。 ・自由民権運動は誰がどのように進めたのだろうか。 ・大日本帝国憲法はどのようにつくられたのだろうか。またどのような内容だったのだろうか。 ・日清・日露戦争はどのような戦争だったのだろうか。 ・産業の発展によって社会はどのように変化したのだろうか。 ・どのような人たちが科学を		◆ウー① 条約改正、大日本帝国憲法の發布、日清・日露戦争、科学の発展などについて予想し、学習計画を立てている。 (ノート記述分析)

			<p>発展させたのだろう。 ・人々の暮らしはどのように 変化したのだろう。</p>		
調 べ る	3	西南戦争や自由民権運動の高まりについて調べ、人々が新しい政治に対してもっていた願いを理解する。	<p>『自由民権運動は誰がどのように進めたのだろう。』 ○自由民権運動について調べ、図解化する。 ○調べたことを伝え合う。 ○学習したことを基に、自由民権運動に関わった人たちの思いを考え、吹き出しにまとめる。 ○吹き出しにまとめ伝え合う。</p> <p>○学習したことを基にロードマップにまとめる。 ○本時の学習を振り返る。</p>	※自由民権運動 (文章資料)	◆アー① 自由民権運動について、文化財や年表、その他の資料を通して調べ、理解している。 (ノート記述分析)
	4	大日本帝国憲法の発布について調べ、明治政府が目指した政治の在り方がどのように実現したのかを理解する。	<p>『大日本帝国憲法はどのようなものだったのだろう。』 ○大日本帝国憲法の発布や国会の開設に向けての流れについて調べ、図解化する。 ○調べたことを伝え合う。 ○学習したことを基に、「憲法づくりと国会開設を進める伊藤博文の思い」についてノートにまとめる。 ○まとめたことを伝え合う。 ○学習したことを基にロードマップにまとめる。 ○本時の学習を振り返る。</p>	※伊藤博文と大日本帝国憲法 (文章資料)	◆アー① 大日本帝国憲法の発布について、文化財や年表、その他の資料を通して調べ、理解している。 (ノート記述分析)
	5 本 時	治外法権の撤廃と日清戦争について調べ、日本と世界の国々との関係の変化を理解する。	<p>『治外法権の撤廃と日清戦争を通して、日本と世界の関係はどのように変化したのだろう。』 ○治外法権の撤廃と日清戦争について調べ、図解化する。 ○調べたことを伝え合う。</p> <p>○学習したことを基にロードマップにまとめる。 ○本時の学習を振り返る。</p>	※日清戦争 (文章資料)	◆アー① 治外法権の撤廃や日清戦争について、文化財や年表、その他の資料を通して調べ、理解している。 (ノート記述分析)
	6	日露戦争や韓国併合、関税自主権の回復について調べ、日本と外国の関係の変化を多面的に理解する。	<p>『日露戦争や韓国併合を通して、日本と世界の関係はどのように変化したのだろう。』 ○日露戦争と韓国併合について調べ、図解化する。 ○調べたことを伝え合う。 ○「日清戦争後の日本と欧米諸国の思い」についてまとめ、伝え合う。 ○学習したことを基にロードマップにまとめる。 ○本時の学習を振り返る。</p>	※日露戦争 (文章資料)	◆アー① 日露戦争や韓国併合、関税自主権の回復について文化財や年表、その他の資料を通して調べ、理解している。 (ノート記述分析)
	7	産業の発展や日本人の国際社会で	『産業の発達や日本人による様々な分野での活躍は、日本と世界の関係にどのような影響		

	の活躍について調べ、日本の国力が充実したことや国際的地位が向上したことを理解する。	<p>を与えたのだろう。』</p> <p>○産業の発達や日本人の国際社会での活躍などについて調べ、図解化する。</p> <p>○調べたことを伝え合う。</p> <p>○学習したことを基にロードマップにまとめる。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p>	※産業の発達と日本人の活躍 (文章資料)	◆アー① 産業の発達や日本人の国際社会での活躍について、文化財や年表、その他の資料を通して調べ、理解している。 (ノート記述分析)
8	大正時代の文化や大正デモクラシーについて調べ、社会が変化したことを理解する。	<p>『国民の生活はどのように変化した、大正デモクラシーではどのような主張がされたのだろう。』</p> <p>○国民の生活の変化と大正デモクラシーについて調べ、図解化する。</p> <p>○調べたことを伝え合う。</p> <p>○学習したことを基にロードマップにまとめる。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p>	※大正期の人々の暮らしと大正デモクラシー (文章資料)	◆アー① 大正時代の文化や大正デモクラシーについて、文化財や年表、その他の資料を通して調べ、理解している。 (ノート記述分析)
9	調べたことをまとめ、明治政府の政策による社会の変化や産業・科学の発展を捉え、条約改正の達成と関連付け、日本の国際地位が向上したことを考え、表現する。	<p>『学習問題をまとめよう』</p> <p>○ノルマントン号事件から大正デモクラシーまでの出来事や人々の思いをまとめたロードマップを基に、不平等条約の改正に成功した理由と国民生活の変化について振り返る。</p> <p>○学習感想を書く。</p>	□「条約改正にもっとも影響を与えた出来事とその理由」といった視点から考えを書かせる。	<p>◆アー② 調べたことを年表にまとめ、日本の国力が充実し、国際的地位が向上したことを理解している。 (ロードマップ記述分析)</p> <p>◆イー② この時代の出来事が日本の国際的地位に与えた影響について考え、適切に表現している。 (ノート記述分析)</p> <p>◆ウー② 学習したことをもとに、過去の出来事の世の中に与えた影響や、現代社会との関連などの視点から、社会の発展について考えようとしている。 (ノート記述分析)</p>
まとめ				

## 7 指導に当たって

班テーマの「児童の意欲が持続するような指導計画の工夫」を踏まえ、以下の工夫を実践していく。

### (1) 学習計画表の活用

単元の学習計画や評価規準を載せた学習計画表を活用し、毎時間の終末に「主体性・貢献」「知識

技能「思考・表現」の3観点から適宜行うルーブリック評価と「自己の学び方」と「学んだ内容」の2観点から行う記述形式の振り返りを行わせる。これにより、児童が見通しをもって学習を進められるようにしたり、よりよい学びに向かおうとする態度を養ったりしていく。

(2) 単元を通じた学習活動「ロードマップ」

単元を通して、条約改正に向けて国内・世界情勢がどのように変化していったのか、ロードマップにまとめる活動を行う。ロードマップでは、出来事を時系列に並べ、それぞれが起こったとき、「日本の国民や政府、世界の国々はどのような思いを抱いていたのか。」という視点から書き込ませていく。前小単元で学習した江戸時代後期の日米修好通商条約の締結から、日本人研究者が世界で活躍する明治時代後期に至るまで、約50年間の出来事や人々の思いを時系列に整理することで、社会情勢や日本の国際的地位の変化について様々な立場から捉えていけるようにしたい。

(3) 「調べる」の段階の学習活動のパターン化

「調べる」の段階では、資料の図解化→交流→発表→ロードマップの記入といったように、学習の流れをパターン化する。これにより、児童が学習活動に見通しをもち、主体的に学習に取り組むことができる考えた。

8 本時（全9時間中の第5時）

(1) 本時の目標

治外法権の撤廃と日清戦争について調べ、日本と世界の国々との関係の変化を理解する。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	□指導上の留意点 ※資料	◆評価規準 (評価方法)
導入 5分	○学習問題とこれまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 ・これまで、自由民権運動や大日本帝国憲法の発布について学んできた。 ・欧米諸国に認められようと、日本の政治体制を整えてきた。 ・今日は治外法権の撤廃と日清戦争について学習する。	□学習問題の解決に向けて自分たちで作成した学習計画にそって進めてきていることを確認する。 □ロードマップを確認させ、少しずつ国力が充実してきていることを押さえる。	
治外法権の撤廃と日清戦争を通して、日本と世界の関係はどのように変化したのだろうか。			
展開 35分	○資料から必要な情報を集め、図解化してまとめる。  ○図解化したことを基に説明し合い、理解を深める。  ○図解化を発表する。  ○学習したことを基に日清戦争後の明治政府と欧米諸国の思い」をノートにまとめる。 ○まとめたことを発表する。	□図解化が苦手な児童に対しては、事前に準備した図解化の例を渡し、支援する。 □机間指導をしながら児童のノートをテレビ画面に映し、ヒントとなるようにする。 ※治外法権の撤廃と日清戦争 (文章資料) □自由に友達と交流させ、説明をし合った友達にサインをもらうようにする。 □児童の発表を聞きながら、重要な語句と出来事に関わった人たちの思いを板書していく。	◆アー① 治外法権の撤廃や日清戦争について、文化財や年表、その他の資料を通して調べ、理解している。 (ノート記述分析)

	<p><b>明治政府の例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ようやく治外法権も撤廃できたし、日清戦争にも勝利できた。しかしまだ関税自主権の回復ができていない。これでは貿易で不利な状況は変わらず、産業が発展していかない。今回の戦争で得た多額の賠償金を使って軍事力を強化していき、もっと強い国を目指して、欧米諸国に認めさせるぞ。</li> </ul> <p><b>欧米諸国の例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あの清に勝利するとは、日本も強くなってきたな。今回かなりの賠償金を得たようだ。これでさらに軍事力を強化されると、ますます強くなっていくだろう。我々も少し警戒していく必要があるようだ。</li> </ul>		
まとめ 5分	<p>○学習したことを基にロードマップにまとめる。</p> <p>○学習計画表に振り返りを書く。</p> <p><b>自分の学び方の例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図解化を時間内に終わることができた。また、友達と交流する中で、友達の良いところを書き加えることができた。次回も言葉と図をバランスよく図解化することを心掛けたい。</li> </ul> <p><b>学習した内容の例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本が日清戦争に勝利したことで欧米諸国に認められていったことが分かった。地位が向上したことは良かったと思うが、戦争によって犠牲になった人や植民地にされた国を思うと複雑な気持ちになる。戦争以外の方法はなかったのかということを考えていきたい。</li> </ul>	<p>□明治政府、国民、欧米諸国、三つの視点から思いを考えさせる。</p> <p>□「自分の学び方」と「学習の内容」の2観点から振り返りをさせる。</p>	

(3) 板書計画

12/4 治外法権の撤廃と日清戦争を通して日本と世界の関係はどのように変化したのだろうか。

ロードマップ

イギリス VS ロシア

↑

陸奥宗光 交渉  
治外法権の撤廃

1894年

清 VS 日本 → 日清戦争

↓

日本勝利  
下関条約  
・賠償金3億円  
・台湾の植民地化  
・朝鮮の独立

⇒ 重工業の発展  
さらに強い日本へ

明治政府

国民

欧米諸国

(4) 授業観察の視点

- ・学習計画表を活用したことは、児童の学習意欲を持続させたり、より良い学びに向かおうとする態度を育んだりすることに有効であったか。
- ・ロードマップに日本政府や国民、欧米諸国の思いを書かせる活動は、児童に見通しをもたせ、意欲的に学習に取り組ませることや、日本の国力の高まりを理解させることに有効であったか。
- ・学習活動をパターン化することは児童に学習の見通しをもたせ、意欲的に取り組ませることに有効であったか。